

# TECHNICAL DATA

仕上げの種類	水和凝固型塗膜防水材
製品名	ネオドライ工法 (ND-2工法)

第3版 作成日： 2021年 9月 07日



**菊水化学工業株式会社**

# 標準施工仕様書

## 1. 工法名

ネオドライ工法(ND-2工法)

## 2. 適用工事

- ・ベランダ, ヒサシ等の防水工事(軽歩行用)
- ・屋上保護モルタルの保護工事
- ・各種屋上防水の保護工事

## 3. 材料荷姿及び適用

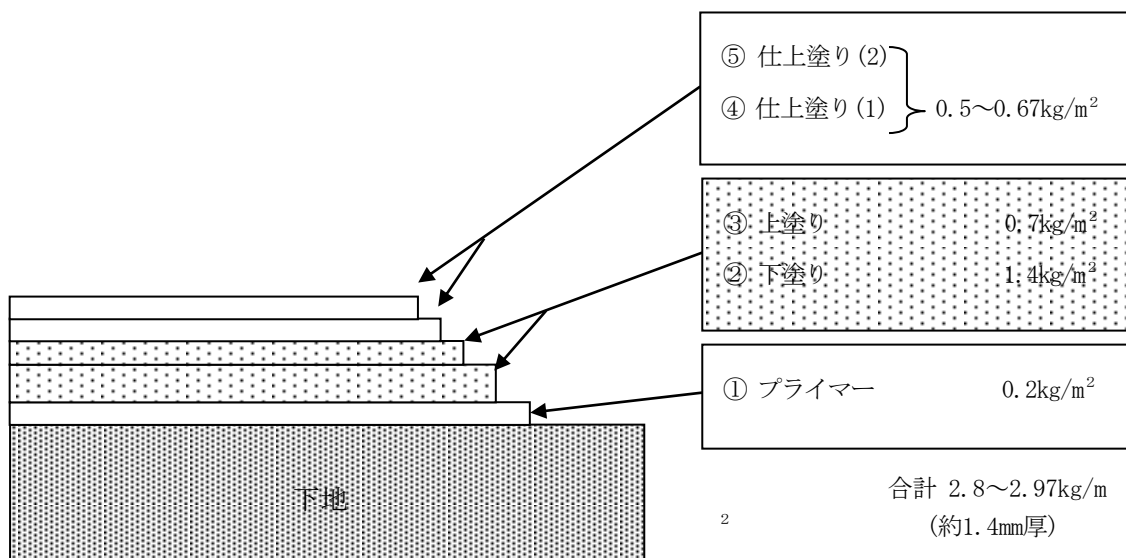
材	料	荷	姿	適	用
NDプライマー E		16kg/缶入		プライマー (コンクリート・モルタル下地用)	
NDコート	主 材	9kg/袋入		防水層用材料	
	混 和 液	8kg/缶入			
ND添加剤		200g/容器入		たれ止め剤 (立ち上り部用)	
NDトップ #1000		15kg/缶入		軽歩行用保護層	

注) ウレタン防水・シート防水・アスファルト防水・金属等の上に施工する

場合は、プライマーとしてNDプライマー S (15kg/缶入)を使用する。

ただし、塩化ビニル系シート防水の場合は、キクスイ プライマーE PWを使用する。

## 4. 工程断面構成図



## 5. 施 工

### 5. 1 下地調整

- (1) 下地の汚れ等は高圧水洗・ほうき等で除去し、良く(2日以上)乾燥させる。
- (2) 鉄筋、鉄線等の露出部分は切断し、その他突起物などの不要物はサンダー等で除去する。
- (3) 下地の不陸・巣穴等は下記材料等を用いて調整しておく。

ネオモル M-5——平床部用下地調整材(2~5mm厚, S L性)

BR-D コテ塗用——立ち上り部用下地調整材(1~3mm厚)

BR-CL——欠損部充てん用(3~25mm厚)

- (4) 平床部の入隅は、ウレタン系又は変成シリコン系のシーリング材を打っておく。
- (5) 0.5mm以下のクラックはBR-D コテ塗用等で充てんしておく。
- (6) 0.5mm以上のクラックはUカット後ウレタン系又は変成シリコン系のシーリング材を充てんし、プライマー塗布乾燥後、ND防水テープを張っておく。

下地の不陸が大きくND防水テープの密着が悪いと考えられる場合は、プライマー塗布前にBR-D コテ塗用等にて不陸調整を行う。

注)・ND防水テープ;補強用ブチルゴムテープ 15, 10, 5cm幅×20m巻き

- (7) 伸縮メチ・コンクリート打継部等の動きの大きい箇所は、プライマー塗布後絶縁テープ(50mm幅)を張り、更にND防水テープを張り、NDコート+NDメッシュで補強する。

### 5. 2 プライマー

- (1) 下地がモルタル・コンクリート面の場合は、NDプライマー Eをウールローラー等を用いて塗布する。
- (2) 下地がウレタン防水・シート防水・アスファルト防水・金属・塩ビ等の場合は、溶剤系のNDプライマー Sをウールローラー等を用いて塗布し、2時間以上は放置し溶剤を蒸発させる。  
ただし、塩化ビニル系シート防水には溶剤系2液反応硬化形エポキシ樹脂系下塗材キクスイプライマーEPW塗布し、24時間以上放置し、表面に粘着性が発生していないことを確認して次工程に進む。
- (3) 溶剤で旧防水層に膨れ等が生じた場合は、その部分を除去し再度プライマーを塗布する。
- (4) プライマーは塗り残しのないように均一に塗布し、下地の吸い込みが著しい場合は2回塗りを行う。

### 5. 3 補強塗り

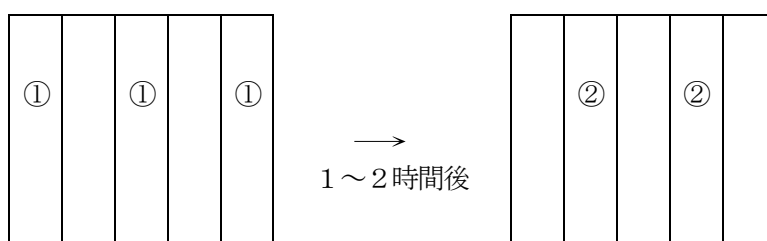
- (1) 必要に応じて出隅・入隅・パイプまわり・ドレンまわり等は、NDメッシュを併用してNDコートの補強塗りをを行う。

注)NDメッシュ;補強布 10, 20, 50, 105cm幅×115m乱巻き

- (2) 補強塗りに使用するNDコートは、たれ止めのため1セット当たりND添加剤(200g)を混入し清水は0とする。

#### 5. 4 下塗り

- (1) NDコート 混和液 1 缶 (8kg) を練り容器に入れ、NDコート 主材 1 袋 (9kg) を徐々に加えながらハンドミキサーでまます粉及び泡の混入がないように均一に混合し、清水0～0.5リットルで軟度調整して1～2mm目のふるいでこす。
- (2) 左官ばけ・角ごて等を用いて約1mm厚に塗布する。
- (3) 塗り継ぎは、前に塗った材料の表面が乾かないうちに行うか、又はほぼ完全に硬化してから行う方がよい。したがって広い面積を塗る場合は、最初1m間隔ごとに塗布し、ほぼ硬化(1～2時間後)してから塗り残した箇所を塗布するようにするとよい。



- (4) 垂直面・こう配の急な面(1/10程度以上)に施工する場合は、たれ止めのため1セット当たりND添加剤(200g)を混入し清水は0として塗布する。

#### 5. 5 上塗り

- (1) NDコート 混和液 1 缶 (8kg) を練り容器に入れ、NDコート 主材 1 袋 (9kg) を徐々に加えながらハンドミキサーでまます粉及び泡の混入がないように均一に混合し、清水0～0.5リットルで軟度調整して1～2mm目のふるいでこす。
- (2) 左官ばけ・角ごて等を用いて約0.5mm厚に塗布する。
- (3) 上塗りは下塗りと直角方向に塗布する。

#### 5. 6 仕上塗り

- (1) NDトップ #1000をハンドミキサーでよくかくはんし、清水0～0.75リットル以内で粘度調整する。
- (2) ウールローラー(中毛・長毛)、水性ばけ等を用いて2回塗布する。

## 6. 標準工程表

工 程	材 料	調 合 (kg)	塗布量 (kg/m <sup>2</sup> )	施工器具	間隔時間 (20℃)	備 考
プライマー	ND プライマーE	無希釈	約0.2	ウールローラー等 (牦)	1以上	コンクリート・モルタル下地 約80m <sup>2</sup> /缶
	ND プライマーS	無希釈	約0.2	ウールローラー等 (牦)	2以上	ウレタン・シート・ アスファルト防水下地 約75m <sup>2</sup> /缶
補強塗り	NDコート 主 材	9	約1.4	水性ばけ 等	3以上	出隅・入隅・パイプまわり・ ドレンまわり等の補強
	NDコート 混和液	8				
	ND添加剤	0.2				
	NDメッシュ	—	—			
下塗り	NDコート 主 材	9	約1.4	左官ばけ, 角ごて等	4以上	約12m <sup>2</sup> /セット
	NDコート 混和液	8				
	清水	0~0.5				
上塗り	NDコート 主 材	9	約0.7	左官ばけ, 角ごて等	8以上	約24m <sup>2</sup> /セット
	NDコート 混和液	8				
	清水	0~0.5				
仕上塗り (2回塗り)	NDトップ #1000	15	0.5~0.67	ウールローラー (牦・髯) 水拭き	工程内 3以上	22~30m <sup>2</sup> /缶
	清水	0~0.75				

注) 立ち上り部の下塗りは、たれ止めのため1セット当たりND添加剤(200g)を混入し、清水は0とする。

## 7. 注意事項

- (1) NDコートは可使時間が約40分(20℃の場合)なので、それまでに使い切る。
- (2) 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生ずることがあるので施工を避ける。
- (3) 外部での施工で降雨、降雪の場合又はそのおそれのある場合及び強風時は施工を避ける。
- (4) 材料は、直射日光下及び0℃以下での保管は避ける。
- (5) NDコート 主材は、湿気や水掛かりに注意して保管する。
- (6) NDプライマー Sを取り扱う場合は、特に火気に注意し消防法及び労働安全衛生法等を厳守する。

# 成 分 表

名 称	水和凝固型塗膜防水		
工 法 名	ネオドライ工法 (ND-2工法)		
荷 姿	下塗材 : NDプライマー E	NET 16kg/缶入	
	: NDプライマーS	NET 15kg/缶入	
	主 材 : NDコート	[主 材] NET 9kg/袋入	
	仕上材 : NDトップ #1000	[混和液] NET 8kg/缶入	NET 15kg/缶入

● 下 塗 材 : NDプライマー E

内 容	重 量 (%)
エポキシ変性アクリル樹脂エマルジョン	100.0
計	100.0

: NDプライマー S

内 容	重 量 (%)
塩化ビニル系樹脂ワニス	40.0
溶剤	60.0
計	100.0

● 主 材 : NDコート 主材

内 容	重 量 (%)
無機質結合材	35.6
骨材	62.2
白色顔料	1.8
添加剤	0.4
計	100.0

: NDコート 混和液

内 容	重 量 (%)
アクリル樹脂エマルジョン	97.4
水	1.6
添加剤	1.0
計	100.0

● 仕 上 材 : NDトップ #1000

内 容	重 量 (%)
アクリル樹脂エマルジョン	20.1
白色及び体質顔料	41.6
水	14.3
添加剤	3.9
細骨材	20.1
着色顔料	適宜
計	100.0

# 性 能 試 験 成 績 書

工 法 名	ネオドライ工法 (ND-2工法)			
供 試 材 料	下塗材：NDプライマー E 主 材：NDコート 仕上材：NDトップ #1000			
項 目	規 定			
低温安定性	塊がなく組成物の分離・凝集がないこと。	合 格	JIS A 6909 (防水形複層塗材CE) 準拠	
軟度変化 B法	-15~15%	3		
初期乾燥ひび割れ抵抗性	ひび割れがないこと。	合 格		
付着強さ	標準状態	0.7N/mm <sup>2</sup>		1.19
	浸水後	0.5N/mm <sup>2</sup>		0.59
温冷繰り返し	試験体の表面に、ひび割れ、はがれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がないこと。	合 格		
透水性 B法	0.5ml以下	0.14		
耐衝撃性	ひび割れ、著しい変形及びはがれがないこと。	合 格		
引張強さ	無 処 理	-10℃ (N/mm <sup>2</sup> )	5.05	JIS A 6021準拠
		20℃ (N/mm <sup>2</sup> )	1.62	
		60℃ (N/mm <sup>2</sup> )	1.00	
	加熱処理 (N/mm <sup>2</sup> )		1.80	
	アルカリ処理 (N/mm <sup>2</sup> )		1.44	
	酸処理 (N/mm <sup>2</sup> )		1.33	
	浸水処理 (N/mm <sup>2</sup> )		1.20	
伸び率	無 処 理	-10℃ (%)	30	
		20℃ (%)	140	
		60℃ (%)	50	
	加熱処理 (%)		140	
	アルカリ処理 (%)		130	
	酸処理 (%)		160	
	浸水処理 (%)		170	
引裂強さ	(N/mm)	10.5		
抗張積	(N/mm)	45.4		
伸び時の劣化	はく離、反り及びねじれがなく主材にひび割れがないこと。	合 格		
ゼロスパンテンション	(mm)	3.9	自社法	
-以下余白-				

\* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承下さい。